

表現力に培う読むことの指導に関する研究  
—読むことと書くことを連動させた授業づくりを中心に—

教育実践高度化専攻  
小学校教員養成特別コース  
M07822A 佐竹 志保

## 1.研究の目的

2003年、7月にOECDが実施したPISA調査の「PISA型読解力」の得点が大幅に低下した。それを受けて、平成20年度版学習指導要領では、読むことと表現することの連動がいつそう重要とされている。こうした動向を見てみると、読解と表現が連動した指導、授業がますます求められることになると考えられる。本研究では表現の中の音声表現ではなく、文字表現に焦点をあて、読むことと書くことの連動に重きをおいている。書くことは子どもの考える時間を保障し、読むことにつながると考えるからである。しかし、書くことを十分に授業の中で生かせない場合も多い。以上のことから、本研究は読んだことを表現（特に書くこと）する能力を高めること、書くことをどのように授業に生かすと、子どもの読みが深まるかについて考察することを目的とする。

## 2.論文の構成

本論文は、4章により構成されている。

- 第1章 問題の所在と研究の目的  
研究の方法
- 第2章 読むことの学習で育つ表現力（文字言語による表現力の場合）
  - 第1節 読むことと書くことを連動させた学習指導の先行研究
    - (1) 視写を取り入れた実践
    - (2) 書き足し
    - (3) 比較して考えることをうながす書くこと
    - (4) 先行研究のまとめ

第2節 「PISA型読解力」が求める表現力

第3節 平成20年版学習指導要領の「読むこと」の中で求められている表現力

第4節 まとめ

第3章 実習校における授業実践の分析と考察（第5学年「大造じいさんとガン」）

第1節 実践の目的

第2節 実践の方法

第3節 結果と考察

第4節 まとめと今後の課題

第4章 総括と今後の課題

## 3.研究の概要

第2章1節では、従来我が国で読むことと書くことの連動を授業の中で意図的に行い、成果をあげている実践者の整理を行った。それらの実践者の共通する成果と課題について以下のように整理できた。

### 成果

- 1 発問と応答ばかりの授業ではなく、書くことによって読むことができる授業を実現している。必然性のある授業をすることにより子どもの学習意欲を高め すべての子どもが読むことに取り組む姿勢をもつ。
- 2 それぞれの子どもが書くことを通して個性を發揮できる。
- 3 しっかりと自分の意見を書かせてから、比較させることで、書いてある文章を、深く読む

ことができる。

- 4 読みの授業において、どの場面で、どのように書かせるかという実践がいくつもありバリエーションがある。

#### 課題

- 1 鑑賞的な読み方が中心であると思われる。
- 2 PISA 型で重視されている「なぜそう思うの」という発問があまり強調されていない。

第2節では、「PISA 型読解力」が求める表現力について、「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」の3つのプロセスを用いて述べている。

第3節では、平成20年版学習指導要領の「読むこと」の中で求められている表現力を示した。

第4節ではこれまでの先行研究や学習指導要領を整理し、改善点について考察するため表1「読むことと書くことを連動させた学習活動の比較」を作成した。

#### 表1の整理

- 1 青木による書くことにおけるバリエーションは大変豊富であり、PISA 型でいう「解釈」に重きをおいたものとなっている。
- 2 「PISA 型読解力」では発問に重きをおいている。どのような場合でも意見の根拠を言わせることが強調されている。また、批判的読みを読解力に含んでいる点の特徴である。
- 3 20年版学習指導要領では、青木の「第3の書く」の書くことと対応しているものが多いこと、自分の意見をもつこと、その根拠を本文から見つけることが重要とされている。h、i、j、kのいずれも自分の意見をもつこと的手段として考えられている。自分の意見を形成することは、「PISA 型読解力」の批判的読みをさせる際、基盤となるものである。

平成20年版学習指導要領をとらえる際、青木の実践は非常に役に立つ。従来から書くことと読むことを連動し実践してきた青木の理論が今必要とされているからである。また、同時に「PISA 型読解力」で強調されている批判的読み、根拠を言わせる等も20年版学習指導要領では重視されている。

第3章では、実習校における授業実践においてビデオや子どもの書いたものから授業展開を提示し、実践の成果と書かせる前と後にわけて問題及び改善を述べた。

#### 成果

- ①登場人物に同化させて読ませることで大造じいさんの微妙な気持ちを書き、気持ちの変化を読み取ることができた。
- ②子ども独自の、個性が発揮された意見を書かせることができた。
- ③書くことが遅い、抵抗があることで、いつもは白紙で提出する子どもも自分なりの意見を書くことができた。

#### 事前の問題と改善

- ①書く目的が不足していたので、明確な目的が必要であった。
- ②手引きを用いるなど、根拠を考えさせる手だてが必要であった。

#### 事後の問題と改善

- ①一人の子どもの意見を取り上げて授業を進め、子どもの多様な答えを生かして授業展開することができなかった。
- ②よく思考されていない時に書かせたことで混乱があった。書かせるタイミングが重要である。
- ③根拠が答えにくい子どもに対して書き抜きをさせるなどの手だてが必要であった。

#### 4. 今後の課題

今後の課題として次の3点を挙げる。

1. 書くことの方法ばかりではなく、その前後の授業のあり方についての研究をすること。
2. 日常的に表現力の育成をし、それをどのように授業の中で効果的に生かしていくかについての研究をすること。
3. 批判的読みの意義と効果について把握した上で実践すること。

指導教員 吉川 芳則